2022 年度版 交通事故の実態

2021 年度の事故発生状況 (2021.04 ~ 2022.03)



2022 年度版「交通事故の実態」の発刊にあたって

当組合は、交通事故の防止を最重要課題として取り組んでいます。

2021年度は組合員の交通事故の発生実態を踏まえ、交通事故防止重点項目を掲げ、コメンタリー運転の実践を推進し、組合員の理解と協力のもと、交通事故の防止に向けた取り組みを行いました。

ここに、2022 年度版「交通事故の実態」として、2021 年度の交通事故の発生 状況を統計資料として公表いたします。

組合員の皆様におかれましては、一件でも交通事故を減少させるため、事業 所の交通事故防止活動にご活用いただければ幸いに存じます。

2021 年度交通事故防止重点項目

- 交差点事故の根絶
- 追突事故の根絶

データの分類は、各年度ごとに「全事故」や「共済種目別」に行っています。

- 「全事故」とは、各期間内に受け付けた事故件数
- 「共済種目別」とは、共済契約種目別に事故処理をした件数

「支払共済金」には、確定前の支払備金も含んでいます。

目 次

1. 交通事故発生状況(全事故)1	頁 5. 過去5年間における高額賠償事案の事故発生状況16 頁
(1) 事故発生件数と事故率 (2017 ~ 2021 年度)	(1) 対人共済
(2) 月別事故発生件数(2021年度)	① 高額賠償事案(1,000万円以上)の事故発生状況
(3) 類型別事故発生件数(2021年度)	② 道路形状別の事故発生状況
(4) 道路形状別事故発生件数(2021年度)	③ 原因別の事故発生状況
(5) 発生時間帯別事故発生件数(2021年度)	④ 類型別の事故発生状況
(6) 運転者年齡層別事故発生件数(2021年度)	(2) 対物共済
(7) 原因別事故発生件数 (2021 年度)	① 高額賠償事案 (200万円以上) の事故発生状況
	② 道路形状別の事故発生状況
2. 共済種目別事故発生状況	頁 ③ 原因別の事故発生状況
(1) 共済種目別事故発生件数・事故率	④ 類型別の事故発生状況
(2) 対人共済被害者数 (死亡・後遺障害・傷害)	4-4-
(3) 対物共済類型別件数	6. 過去5年間における運転者年齢層別の事故発生状況(全事故)20頁
	(1) 運転者年齢層別の道路形状別事故発生状況
3. 交通事故防止重点項目に係る事故発生状況(2021年度)6	頁 (2) 運転者年齢層別の類型別事故発生状況
(1) 交差点事故の実態	(3) 運転者年齢層別の時間帯別事故発生状況
① 交差点事故の類型別事故状況(全事故)	
② 交差点事故の原因別事故状況(全事故)	7. 2021 年度交通事故防止強化月の事故発生状況23 頁
③ 交差点事故 (対人・対物共済) の支払共済金	(1) 月別事故発生件数
(2) 追突事故の実態	① 全事故
① 追突事故の発生場所別と事故原因(全事故)	② 対人共済
② 追突事故 (対人・対物共済) の支払共済金	③ 対物共済
(3) 構内事故の実態 (対物共済)	
① 構内事故の類型別事故状況	8. 2021 年度交通事故防止強化月の結果について24 頁
② 構内事故の原因別事故状況	(1) 交通事故防止強化月の取り組み
③ 構内事故の支払共済金	① 重点項目別事故発生件数
(4) 交通弱者を被害者とする事故の実態(対人共済)	② 交通事故防止強化月ポスターの作成
① 交通弱者との道路形状別事故状況	
② 交通弱者との原因別事故状況	9. 交協連傘下 15 組合の 2021 年度事故発生状況
③ 交通弱者被害者態制 (死亡・後遺障害・傷害) の支払共	
④ 交通弱者年齢層と事故発生場所	(2) 原因別事故発生状況(対人事故)
⑤ 交通弱者被害者類型・態様別	(3) 類型別事故発生状況(対人事故)
	(4) 運転者年齡層別事故発生状況(対人事故)
4. 過去5年間における発生事故に係る支払共済金15	

1. 交通事故発生状況(全事故)

(1) 事故発生件数と事故率 (2017~2021年度)

2021年度は、事故発生件数、事故率ともに2017年度以降最も多くなっています。共済種目 別事故発生件数では、対人共済、対物共済、車両共済の発生件数、事故率ともに前年度より 増加となりました。なかでも、対物共済の発生件数は2020年度以前と比べても、最も高い数 値となりました。



※事故率は、100両当りの1年間の事故発生割合(件数)を示します。

共済種目別事故発生件数

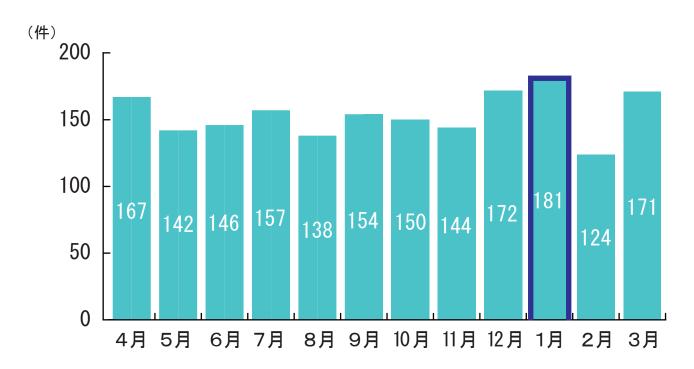
(件)

年 度 共済種目別	2017	2018	2019	2020	2021
対 人	426	412	381	316	332
搭 傷	9	7	5	6	0
対 物	1,489	1,602	1,610	1,559	1,690
車 両	122	112	112	102	113
合 計	2,046	2,133	2,108	1,983	2,135
全事故件数	1,719	1,802	1,803	1,718	1,846

※全事故の発生件数は、1件の事故につき複数共済種目での受付を含んでいます。また、各年度の決算時の件数を示します。

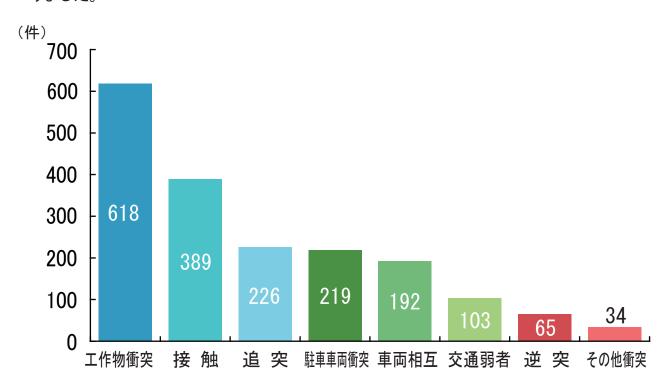
(2) 月別事故発生件数(2021年度)

月別では、1月が最も多く181件で、前年度比37.1%(49件)増加しています。



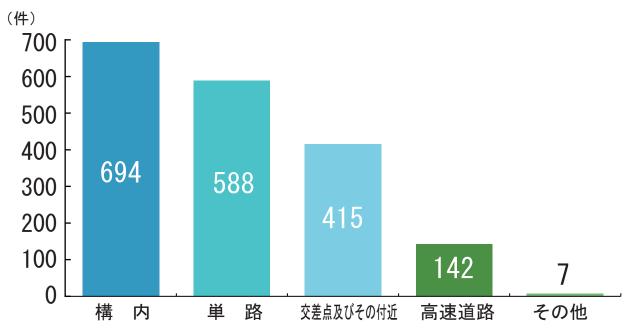
(3) 類型別事故発生件数(2021年度)

類型別では、工作物への衝突が最も多く、全件数1,846件のうち 33.5% (618件) となっています。交通事故防止重点項目で掲げている追突では、前年度比6.6% (14件) の増加となりました。



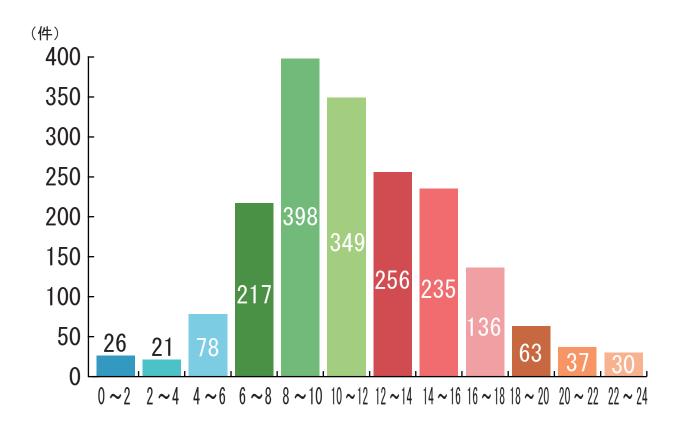
(4) 道路形状別事故発生件数(2021年度)

道路形状別では、交通事故防止重点項目に掲げている構内で前年度比13.2%(81件)、交差点及びその付近で4.5%(18件)増加しており、また、単路においても6.7%(37件)増加しました。



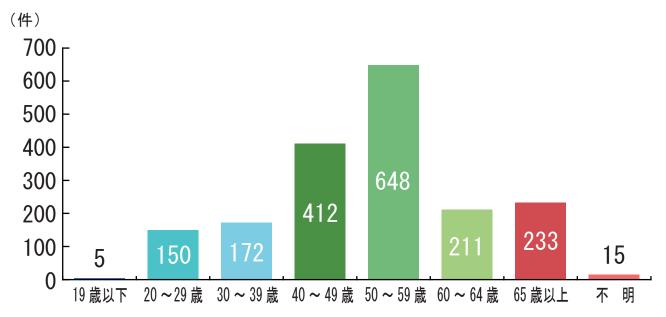
(5) 発生時間帯別事故発生件数 (2021年度)

発生時間帯別では、8時から12時までの時間帯が多く、全体の40.5%を占めており、特に8時から10時の時間帯に最も多く発生しています。



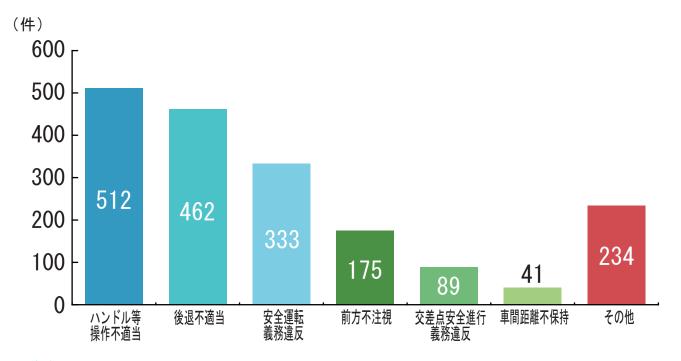
(6) 運転者年齡層別事故発生件数(2021年度)

運転者年齢層別では、40~49歳が前年度比15.3%(63件)減少した一方、50~59歳では20.9%(112件)増加しており、運転者の高齢化が年々進んでいます。



(7) 原因別事故発生件数(2021年度)

原因別では、ハンドル等操作不適当が最も多く、次いで後退不適当の順に多く発生しています。



道路交通法では

- ◇安全運転義務違反とは、他人に危害を及ぼさないような速度と方法で運転しなければならないという運転者の義務に違反したものをいいます。
- ◇交差点安全進行義務違反とは、交差点を通過する際、交差点の通行車両及び横断歩行者に注意し、安全 な速度と方法で進行しなければならないという運転者の義務に違反したものをいいます。

2. 共済種目別事故発生状況

(1) 共済種目別事故発生件数・事故率

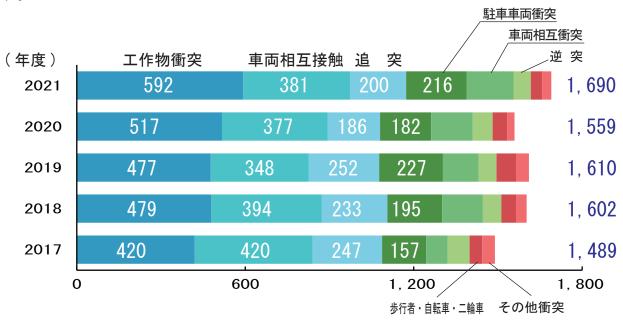
共済種目	別 年 度	2017	2018	2019	2020	2021
	発生件数(件)	426	412	381	316	332
対	死者数(人)	5	7	5	1	1
人	傷者数(人)	525	527	473	384	440
	事故率(件)	2. 52	2. 42	2. 25	1. 84	1. 96
搭	発生件数(件)	9	7	5	6	0
傷	事故率(件)	0. 15	0. 11	0. 07	0. 09	0
対	発生件数(件)	1, 489	1, 602	1, 610	1, 559	1, 690
物	事故率(件)	11. 22	11. 96	11. 86	11. 18	12. 10
車	発生件数(件)	122	112	112	102	113
両	事故率(件)	6. 72	5. 93	5. 60	4. 66	5. 03

(2) 対人共済被害者数 (死亡·後遺障害·傷害)

区 分 年 度	2017	2018	2019	2020	2021
① 死 亡(人)	5	7	5	1	1
② 後遺障害(人)	33	32	28	29	20
③ 傷 害(人)	492	495	445	355	420
④ 合 計(人)	530	534	478	385	441
⑤ ①+② (人)	38	39	33	30	21
⑥ ⑤の④に対する割合 (%)	7. 2	7. 3	6.9	7.8	4.8

(3) 対物共済類型別件数

対物事故による工作物衝突は過去5年間で最も多く、前年度比14.5%(75件)増加しています。



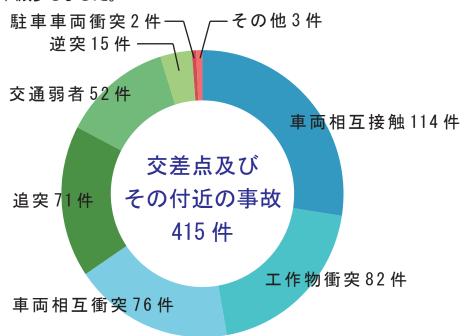
3. 交通事故防止重点項目に係る事故発生状況(2021年度)

(1) 交差点事故の実態

① 交差点事故の類型別事故状況(全事故)

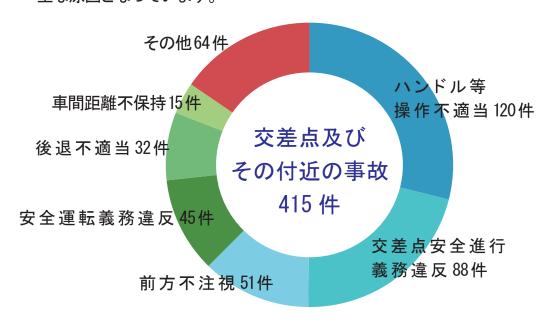
交差点事故の類型別では、工作物衝突が前年度比で86.4%(38件)増加しました。なかでも、フェンス、塀、標識との衝突が48.8%(40件)を占めています。

2020年度の類型別で車両相互接触に次いで多かった追突においては、前年度比で22.8%(21件)減少しました。



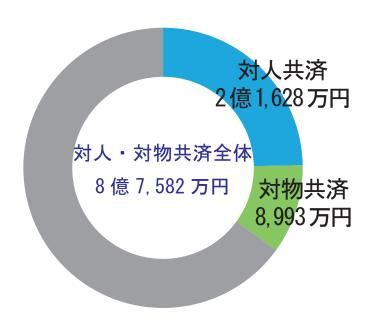
② 交差点事故の原因別事故状況(全事故)

交差点事故の原因別では、ハンドル等操作不適当および交差点安全進行義務違反が 主な原因となっています。



③ 交差点事故(対人・対物共済)の支払共済金

2021年度の交差点及びその付近の事故による支払共済金は、対人共済2億1,628万円、対物共済は8,993万円、総額で3億0,621万円となり、支払共済金全体の35.0%にあたります。



交差点事故防止のワンポイントアドバイス

交差点での事故原因は、ハンドル等操作不適当、交差点安全進行義務違反が主な原因となっています。車・人が混在する交差点では、コメンタリー運転を実践して確実な安全確認を行うことが大切です。

1. 確実な一時停止と安全確認

交差点は車と歩行者、自転車等が錯綜する場所です。歩行者、自転車を発見したら停止 できる速度に減速し、確実な一時停止と周囲の安全確認をしてから通過してください。

2. 左折時の内輪差に注意

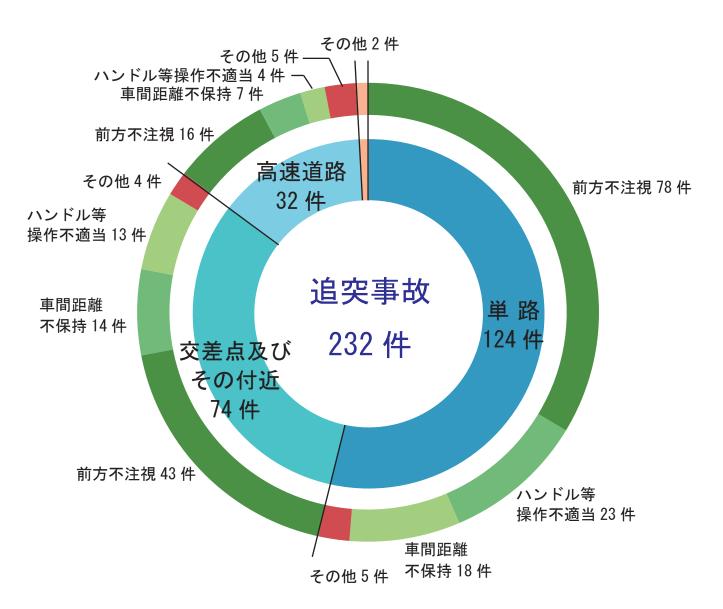
狭い道に左折するときは塀や電柱などに接触する危険があります。内輪差を考慮し、側 方の安全をこまめに確認しましょう。

3. コメンタリー運転の実践

渋滞の切れ目を右折するときは、対向車の陰から走行して来る二輪車に注意し、「二輪車 注意」「二輪車 停止」などと声に出して、二輪車の有無をしっかり確認しましょう。

(2) 追突事故の実態

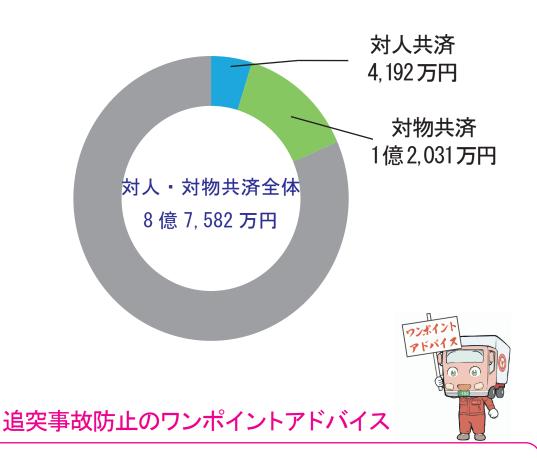
① 追突事故の発生場所別と事故原因(全事故) 追突事故は、前方不注視が主な原因となっており、すべての道路形状で半数以上を 占めています。



※追突事故232件には、交通弱者である二輪車への追突6件を含みます。

② 追突事故 (対人・対物共済) の支払共済金

2021年度の追突事故による支払共済金は、二輪車との追突による高額賠償事故を含む2020年度の対人共済2億7,255万円に比べ、4,192万円と減少しました。対物共済1億2.031万円、総額で1億6,223万円となり、支払共済金全体の約18.5%にあたります。



追突事故防止のため、交差点での信号機の表示遵守や渋滞中における安全確認の励 行などへの注意が必要です。

1. 信号の変わり目に注意

「前車は止まるかもしれない」と常に考え、いつでも停止することができるような速度で運転しましょう。

2. 渋滞走行中に注意

渋滞により速度が緩むとつい気も緩みがちになり、事故に対する警戒心が乏しくなります。 渋滞の時こそ油断をせず、前方の安全確認を怠らないようにしましょう。

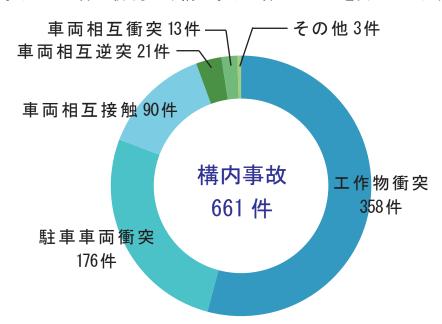
3. コメンタリー運転の実践

「信号 よし」「前方 よし」「車間距離 注意」などと声に出して、自分の目と耳と声での安全確認を心掛けましょう。

(3) 構内事故の実態(対物共済)

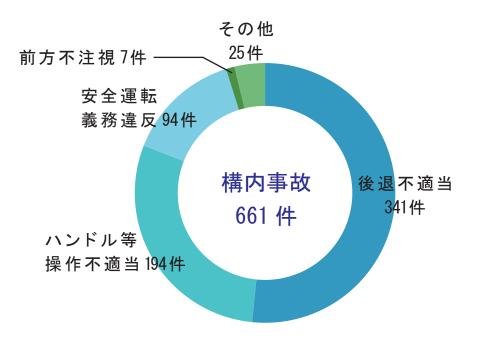
① 構内事故の類型別事故状況

構内事故の類型別では、門柱、シャッタ一等による高額賠償事故を含む工作物への 衝突事故が358件と最も多く、構内事故全体の54.2%を占めています。



② 構内事故の原因別事故状況

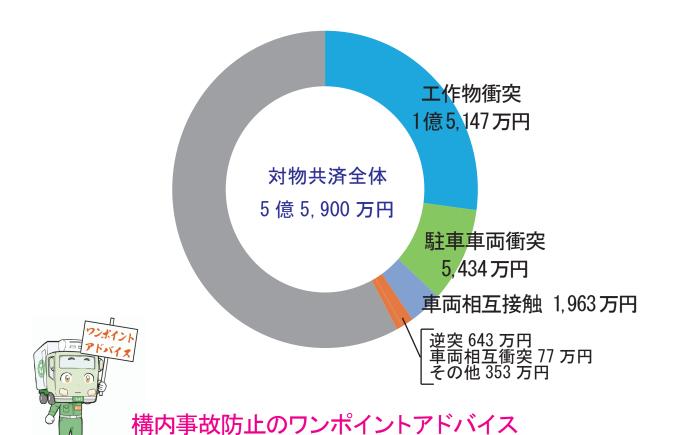
構内事故の事故原因別では、後方に対する安全確認が不十分な後退不適当が341件 と51.6%を占めています。



③ 構内事故の支払共済金

2021年度の構内事故による支払共済金は、総額で2億3,617万円となり、そのうち 工作物への衝突事故が1億5,147万円と構内事故による支払共済金の64.1%を占めて います。

また、構内事故による支払共済金総額は、対物共済全体の42.2%にあたります。



構内での事故の要因は、「いつもの構内だから・・・と警戒心が低下したこと」が事故の大きな要因となっています。慣れた構内ほど油断しないことが大切です。

1. 慣れた構内でも油断しない

慣れた構内でも油断せず、障害物は必ずあるという気持ちで、構内施設や他車両の安全を確認しましょう。

2. 構内ルールを必ず守る

構内速度を守り、一時停止場所では必ず止まって安全を確認し、意識的に警戒心を高めるようにしましょう。

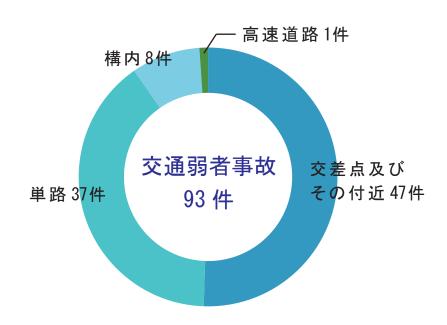
3. コメンタリー運転の実践

必ず下車確認「障害物 なし」、バック開始「後方 注意 よし」などと声に出して、安全確認を徹底しましょう。

(4) 交通弱者を被害者とする事故の実態(対人共済)

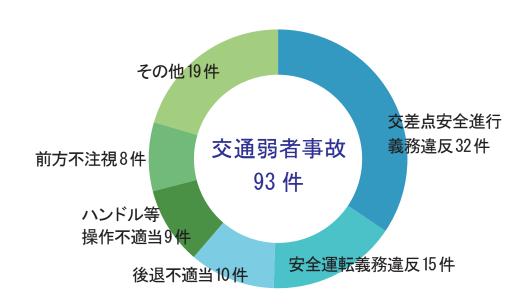
① 交通弱者との道路形状別事故状況

「交通弱者(歩行者・自転車・二輪車)」(以下、「交通弱者」といいます。)を被害者とする事故93件のうち、50.5%(47件)が交差点及びその付近で発生しています。



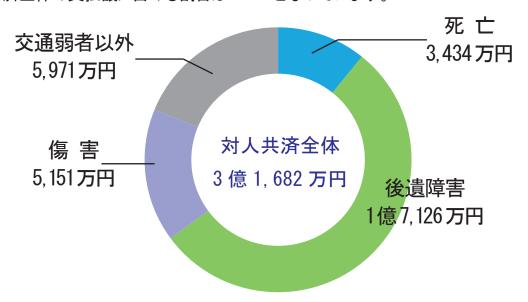
② 交通弱者との原因別事故状況

交通弱者との事故原因別では、交差点を通過する際、通行車両、歩行者への安全確認を怠ったことによる交差点安全進行義務違反が32件と安全運転義務違反15件で約半数を占めています。



③ 交通弱者被害者態様別(死亡・後遺障害・傷害)の支払共済金

2021年度の交通弱者に対する支払共済金は死亡事故に対して3,434万円、後遺障害に対して1億7,126万円、傷害に対して5,151万円で総額2億5,711万円となり、対人共済全体の支払額に占める割合は81.2%となっています。



4) 交通弱者年齢層と事故発生場所

交通弱者事故件数は93件で、被害者数は95人となっています。

発生場所では交差点及びその付近が50.5%を占め、その中で被害者年齢層別では50~59歳が最も多くなっています。

					(人)
場 所 年 齢	交差点及びその付近	単 路	構内	高速道路	合 計
6歳以下	1				1
7~12歳	1	1			2
13~15歳					
16~19歳	4	4			8
20~29歳	8	6			14
30~39歳	8	4	4		16
40~49歳	6	7	1		14
50~59歳	9	8	1	1	19
60~64歳	3	3			6
65歳以上	8	5	2		15
合 計	48	38	8	1	95

5 交通弱者被害者類型,態様別

被害者類型・態様別では、自転車が40件と最も多く発生し、全体に占める割合も42.1%となっています。 (人)

区分		∧ ₹1		
被害者態様	歩行者	自転車	二輪車	合 計
死 亡		1		1
後遺障害	6	4	2	12
傷害	22	35	25	82
合 計	28	40	27	95



交通弱者との事故は、「交差点安全進行義務違反」・「ハンドル等操作不適当」・「安全 運転義務違反」が主な原因で発生しています。

1. 周囲の安全確認の徹底

交通弱者との事故は、交差点及びその付近で、脇見運転などによる発見の遅れ、見落としにより発生しています。また、後遺障害など重大事故につながりやすいため、交差点通行時は減速し、特に右左折時は周囲の安全確認を十分に行い走行してください。

2. 生活道路の漫然運転による横断歩行者に注意

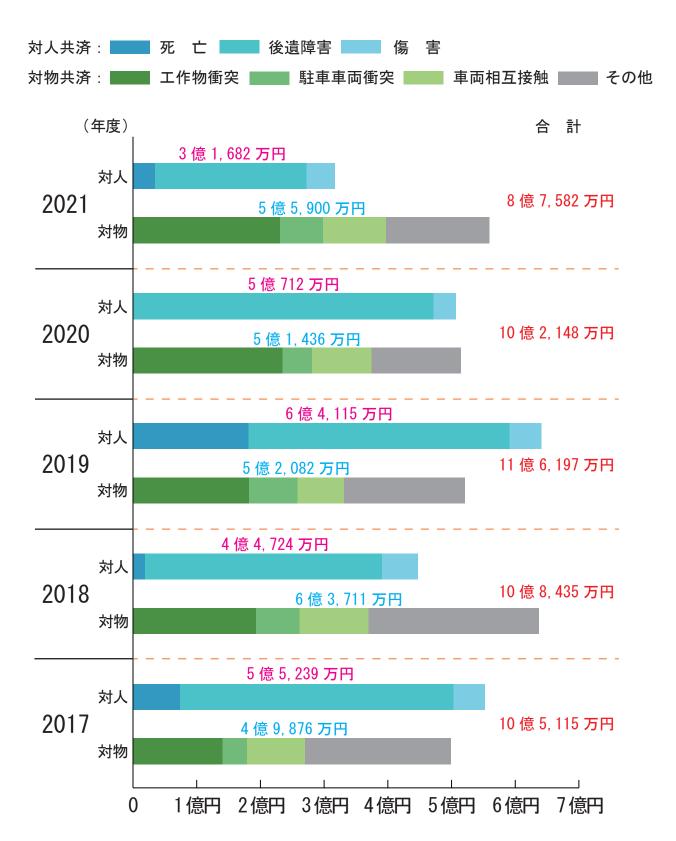
人通りの少ない生活道路では、横断歩道の無い場所での高齢者の横断や駐車車両の陰 からの子どもの飛び出し等、漫然と運転していると発見が遅れて、歩行者事故が発生し ますので、注意を徹底しましょう。

3. コメンタリー運転の実践

「横断歩道 注意」「歩行者 停止」「自転車 停止」などと声に出して、危険と思われる対象を正確に把握し、認知ミスを防ぎましょう。

4. 過去5年間における発生事故に係る支払共済金

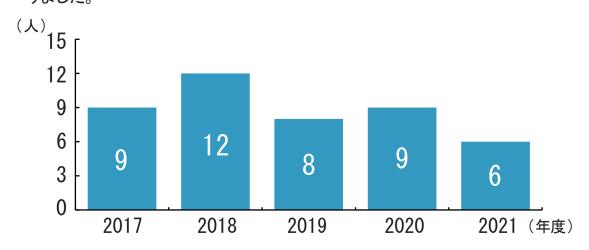
2021年度の対人・対物共済の支払共済金は8億7,582万円で、前年度と比較して1億4,566万円減少しています。



5. 過去5年間における高額賠償事案の事故発生状況

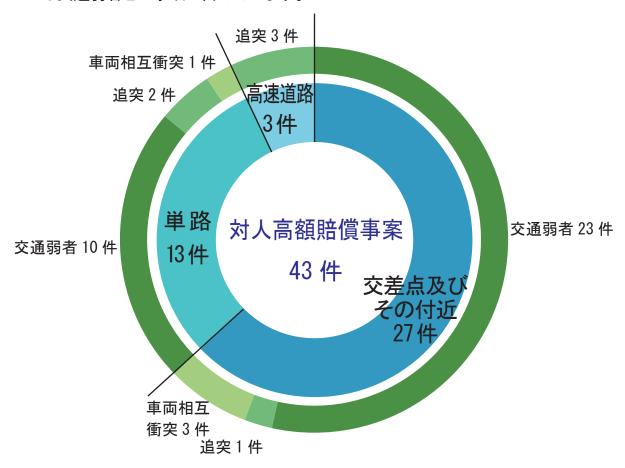
(1) 対人共済

① 高額賠償事案 (1,000万円以上) の事故発生状況 2021年度の高額賠償事案の被害者人数は6人で、過去5年間で最も少ない人数となりました。



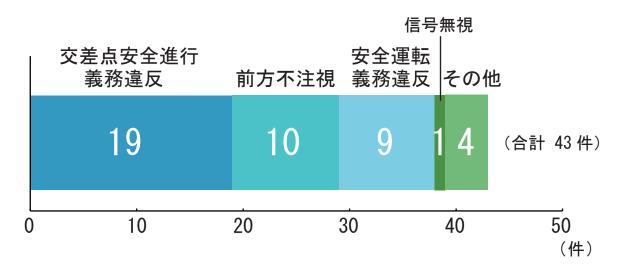
② 道路形状別の事故発生状況

道路形状別では、交差点及びその付近で27件、単路で13件発生しており、その多くは交通弱者との事故が占めています。



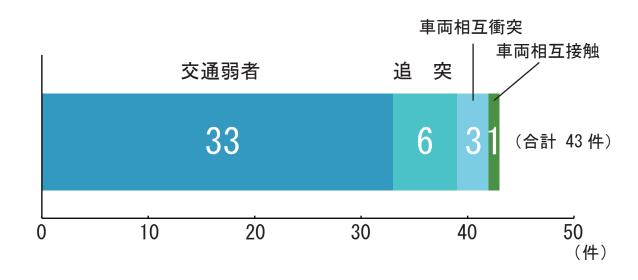
③ 原因別の事故発生状況

原因別では、交差点及びその付近での交差点安全進行義務違反による事故が全体の 44.2%を占めています。



④ 類型別の事故発生状況

類型別では、交通弱者(歩行者・自転車・二輪車)との事故が33件と最も多く、全体の76.7%を占めています。



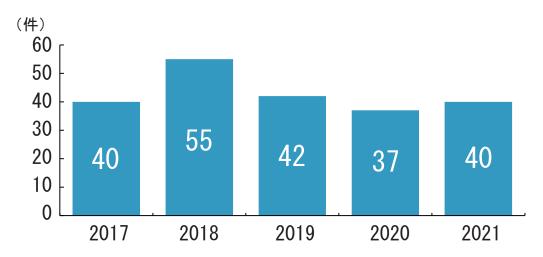




(2) 対物共済

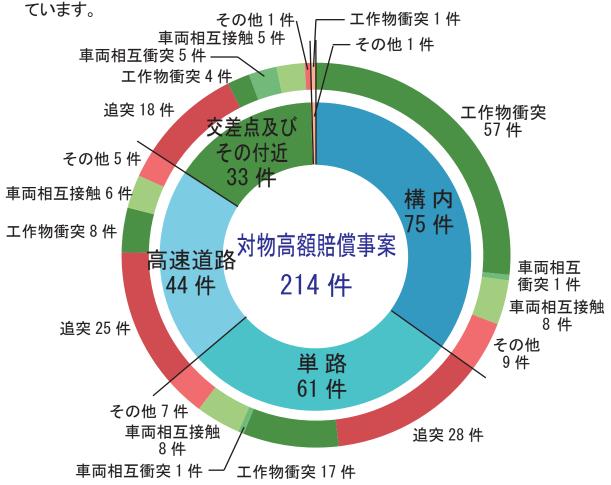
① 高額賠償事案 (200万円以上) の事故発生状況

過去5年間における高額賠償事案は214件で、2021年度は40件発生し、前年度より3件増加となっています。



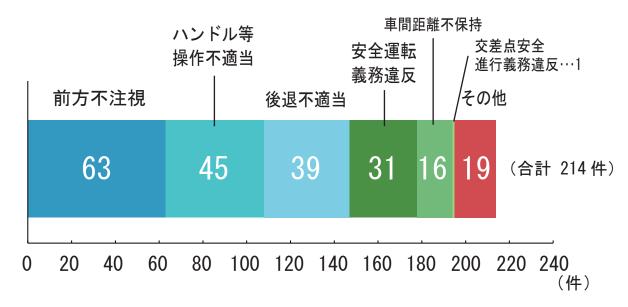
② 道路形状別の事故発生状況

道路形状別では、構内で発生した事故が75件と最も多く、そのうち工作物との衝突が57件と76.0%を占めています。また、単路における追突事故が28件と45.9%を占めています。



③ 原因別の事故発生状況

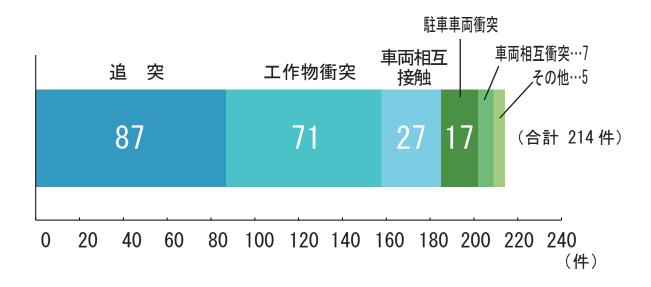
原因別では、前方不注視による事故が63件と最も多く、次いでハンドル等操作不適 当、後退不適当が多く発生しています。



④ 類型別の事故発生状況

類型別では、追突事故が87件と最も多く、次いで工作物衝突事故が71件と多く発生しています。

近年では、工作物衝突事故が高額賠償事案となる傾向があります。



6. 過去5年間における運転者年齢層別の事故発生状況(全事故)

(1) 運転者年齢層別の道路形状別事故発生状況

道路形状別の事故では、30歳代以降から構内での事故件数が増えています。

(件)

区	分	年 🖟	蚧	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上	不明	合計
交差	点及び	その付	近	12	197	218	647	659	223	239		2, 195
	単	路		15	241	287	760	807	277	360	10	2,757
	高速	道路		3	88	83	246	235	82	71	2	810
	構	内		10	170	322	820	996	331	425	27	3, 101
	その	他			1	4	8	6	3	2	1	25
	合	計		40	697	914	2, 481	2,703	916	1,097	40	8,888

(2) 運転者年齢層別の類型別事故発生状況

類型別の事故では、20歳代以降から工作物への衝突が最も多くなっています。

(件)

事故類型	4	年齢	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上	不明	合計
	追	突	10	158	138	380	351	123	155		1, 315
市工地下	逆	突	1	28	34	105	95	44	51		358
車両相互	接	触	9	157	190	607	585	200	228	4	1, 980
	その他	也衝突	5	60	96	245	276	85	67	10	844
	駐車車	両衝突	5	64	103	218	314	111	174	4	993
車両単独	工作物	物衝突	8	174	280	692	845	271	341	9	2, 620
	その	D他		7	14	54	51	10	18	12	166
步行者·自転車·二輪車		二輪車	2	49	59	180	186	72	63	1	612
合 計			40	697	914	2, 481	2, 703	916	1, 097	40	8, 888

(3) 運転者年齢層別の時間帯別事故発生状況

時間帯別では、10時から12時の時間帯に事故が最も多く発生しており、20歳代以降幅広い層で同じ時間帯に事故が多く発生しています。
(件)

									(1午)
年 齢時間帯	19歳以下	20~29歳	30~39歳	40~49歳	50~59歳	60~64歳	65歳以上	不明	合 計
0~2		5	11	43	42	18	13	4	136
2~4		10	14	62	68	20	14	3	191
4 ~ 6		28	37	130	125	43	44	3	410
6~8	12	85	101	301	350	86	118	5	1, 058
8 ~ 10	4	155	170	474	493	178	212	3	1, 689
10 ~ 12	7	126	227	450	543	186	225	8	1, 772
12 ~ 14	5	96	115	351	370	139	194	5	1, 275
14 ~ 16	8	86	98	272	318	114	138	3	1, 037
16 ~ 18	4	62	70	182	201	63	78	3	663
18 ~ 20		26	34	97	94	33	33	2	319
20 ~ 22		9	22	65	54	20	17		187
22 ~ 24		9	15	54	45	16	11	1	151
合 計	40	697	914	2, 481	2, 703	916	1, 097	40	8, 888





高齢運転者への事故防止のワンポイントアドバイス

一般的に、加齢による身体機能の低下に伴って、周囲への注意不足による認知の遅れ、予測不適による判断の誤り、ハンドルやブレーキ操作の誤りなどが事故に繋がる恐れがあります。

65歳以上を対象とした適齢診断の受診結果をもとに、社内での安全運転指導をお願いいたします。

1. 「注意力」「集中力」の維持

運転中にセンターラインを踏んだら要注意。「注意力」「集中力」が低下している可能性があります。悪化すれば、対向車との衝突事故を起こす可能性があるので、再度、「注意力」「集中力」への意識を高め安全運転に努めましょう。

2. 過信せず安全確認をしっかりと

慣れた道でも過信せず、慎重な運転を心掛け、「ここは大丈夫だろう」から「ここは危ないかもしれない」といった意識を持って、常に安全確認を忘れないようにしましょう。

3. 健康管理の徹底

運転者は、自らの健康状態を正しく認識し、疲労を蓄積しないよう心掛けるとともに、 プロ意識をもって日々安全な運行が行えるよう自己管理を行ってください。

4. コメンタリー運転の実践

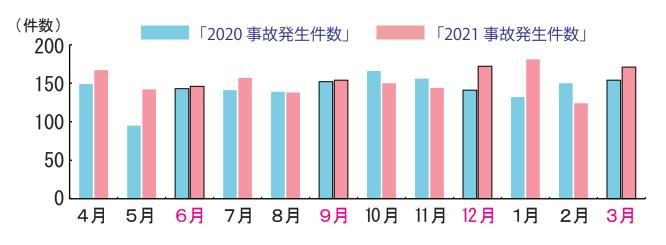
加齢に伴い、動体視力や聴力の低下、集中力の持続の低下等により、危険の発見が遅れがちになります。目に見える危険や隠れている危険を積極的に見つけ出す意識を常に持ち、コメンタリー運転を実践し、「見落とし」を防止しましょう。

7. 2021年度交通事故防止強化月の事故発生状況

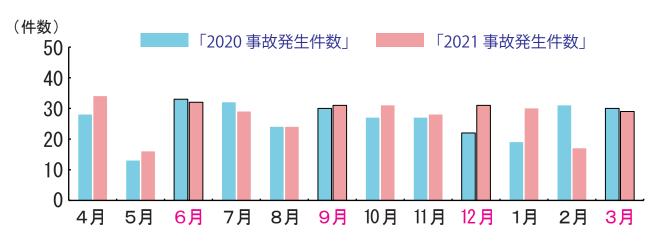
2021年度においても6月、9月、12月、3月の4か月を交通事故防止強化月に設定し、事故防止機器の利用促進、安全情報の配信などに取り組み、事故防止を推進しました。

(1) 月別事故発生件数

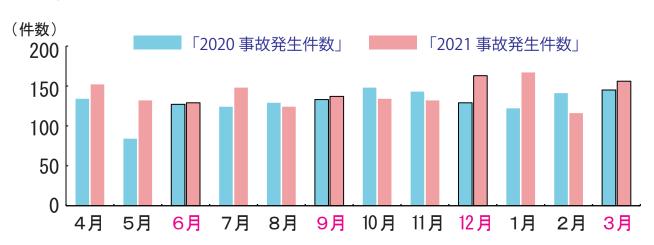
① 全事故



② 対人共済



③ 対物共済



8. 2021年度交通事故防止強化月の結果について

(1) 交通事故防止強化月の取り組み

① 重点項目別事故発生件数

(件)

区 分 重点項目	6月	9月	12 月	3月	月平均 (強化月除く)
交差点事故の根絶	33	43	40	31	33. 5
追突事故の根絶	17	18	16	23	19. 0
構内事故の根絶	56	54	65	57	57. 8

② 交通事故防止強化月ポスターの作成

強化月の定着化をはかり、より一層の事故減少に取り組むため強化月ポスターを作成し、組合員に配付しました。









9. 交協連傘下15組合の2021年度事故発生状況

交協連(全国トラック交通共済協同組合連合会)は、全国15のトラック交通共済協同組合を会員とする団体です。

(1) 事故発生状況(対人・対物事故)

共済	区 分	神奈川(件)	15組合合計	15組合平均	神奈川の割合 (%)
	発生件数 (件)	332	4, 695	313	7. 1
対	死者数(人)	1	88	5. 9	1.1
人	傷者数 (人)	440	5, 972	398	7. 4
	100両当りの事故件数	1. 97		1.51	0.46(平均との差)
対	発生件数(件)	1, 690	27, 129	1, 809	6. 2
物	100両当りの事故件数	12. 13		9. 49	2. 64(平均との差)

(2) 原因別事故発生状況(対人事故)

区 分 事故原因別	神奈川(件)	神奈川の構成比 (%)	15組合合計	15組合の構成比 (%)
前方不注視	112	33. 7	1, 952	41.6
車間距離不保持	25	7. 5	313	6. 7
後退不適当	25	7. 5	226	4. 8
ハンドル等操作不適当	45	13. 6	468	10.0
徐行違反			7	0. 1
左折違反			170	3. 6
右折違反			128	2. 7
一時停止違反			36	0.8
最高速度違反			2	0. 04
優先通行違反			8	0. 2
追い越し違反			55	1. 2
横断(転回)違反			23	0. 5
信号無視	4	1. 2	93	2. 0
酒酔い・酒気帯び			1	0. 02
安全運転義務違反(安全速度)	2	0. 6	9	0. 2
安全運転義務違反(その他)	45	13. 6	787	16.8
交差点安全進行義務違反	44	13. 3	241	5. 1
不明・その他の違反	30	9. 0	176	3. 7
合 計	332	100	4, 695	100

(3) 類型別事故発生状況(対人事故)

区 分 類型別		神奈川(件)	神奈川の構成比 (%)	15組合合計 (件)	 15組合の構成比 (%)
	追突 (走行中)	25	7. 5	372	7. 9
	追突(停止中)	127	38. 3	1, 730	36.8
	正面衝突			51	1.1
車	側面衝突	6	1.8	307	6. 5
両	接触	65	19. 6	1, 080	23. 0
	その他	33	9. 9	294	6. 3
	小 計	256	77. 1	3, 834	81.7
	(うち 自動二輪・原付)	26	7.8	309	6. 6
步行者		27	8. 1	266	5. 7
自転車		40	12. 0	468	10.0
単独(その他)		9	2. 8	127	2. 7
合 計		332	100	4, 695	100

(4) 運転者年齡層別事故発生状況(対人事故)

年 齢	神奈川(件)	神奈川の構成比 (%)	15組合合計	15組合の構成比 (%)
20 歳未満	2	0. 6	27	0.6
20~24歳	11	3. 3	182	3. 9
25~29歳	21	6. 3	274	5. 8
30~34歳	12	3. 6	215	4. 6
35~39歳	20	6. 0	296	6. 3
40~44 歳	31	9. 3	386	8. 2
45~49歳	55	16. 6	665	14. 2
50~54歳	47	14. 2	815	17. 3
55~59歳	50	15. 1	670	14. 3
60~64歳	43	13. 0	505	10.8
65~69歳	22	6. 6	274	5. 8
70 歳以上	18	5. 4	386	8. 2
合 計	332	100	4, 695	100

(引用: 令和3年度 交通共済統計年報データ)

神奈川県自動車交通共済協同組合

〒222-8582

横浜市港北区新横浜二丁目 13 番地 4

TEL. 045-475-2134 FAX. 045-475-2144

HP : https://shinkokyo.or.jp

2022 年 9 月 30 日発行